



退院後も



つなぎます



あなたの



こころとからだ

9月15日号
地域連携室発行

特集！ 有資格者に聞く！

検査科 分元彰宏さん 細胞検査士について

台風14号も過ぎ去り、秋たけなわですが、皆さまいかがお過ごしですか？

TTAKの秋のお便りを申し上げます。

今回、検査科の分元さんが修得している細胞検査士について、どのような資格なのかお伺いしましょう。

分元さん、お忙しいところありがとうございます。

Q：なぜ、資格を修得しようと思われましたか？

A：私は、病理検査の院内実施に伴い、病理細胞学的知識の修得と将来的な細胞診の院内実施を目指して、認定試験の受験にチャレンジし、1995年12月15日に資格を修得しました。

Q：資格の内容を教えてください。

A：細胞検査士は、日本臨床検査医学会と日本臨床病理学会の2つの学会の認定というちょっと変わった認定資格です。受験資格は、

- ①細胞検査養成コースのある大学（現在5大学）で所定の単位を、修得した者
- ②臨床検査技師で細胞検査養成所（現在3施設）に進学し、所定の課程を履修した者
- ③臨床検査技師になって1年以上の実務経験のある者

私の場合③の条件で受験しました。

認定試験は、1次試験と2次試験があり、①1次試験…筆記試験、及びスライドによる細胞像判定試験 東京、大阪で実施（合格率50%）②2次試験…実技試験、顕微鏡によるスクリーニング、細胞同定検査、標準作製実技試験、面接 東京で2日間実施（合格率50%）となっています。

全体での合格率は、約25%で昭和44年の第1回の認定試験実施から、2001年4月現在日本には6050人兵庫県では約200人（全国で7番目に多い）の細胞検査士がいます。

Q：簡単にどういう事をするお仕事ですか？



A：患者様から採取された細胞を、検体処理し各種染色する事により顕微鏡で検鏡し、良性細胞か、悪性細胞（癌細胞）かを見分けたり、良性細胞の中から少数の悪性細胞を見つけ出す検査（細胞診検査）をする能力があると認定された、検査技師のことをいい、細胞診指導医の指示のもと検査を行っています。

Q：何か特別に勉強されましたか？

A：兵庫県主催の細胞検査士養成講座に参加しました。年2回1～3月と6～9月の土曜日の午後と日曜日の合計22日コースで明石の兵庫県成人病センターで行われました。その他試験前の特別研修や、有志での勉強会など仕事を終えてから週1～2回のペースで明石、神戸方面に出向いて行きました。1次試験は1回目から合格しましたが、2次試験合格まで3回（3年）かかってしまいました。



Q：費用はどのくらいかかりましたか？

A：受験に2万円程度の費用がかかりました。

Q：勉強される上で苦労したことはありますか？

A：研修期間中は、充実していたせいかあまり苦労という意識はありませんでしたが、振り返ってみると、ほとんど土日の休みはなく、平日の仕事がすんでからも西播地区での勉強会が少ないため、神戸・大阪方面へと機会を作って細胞を診に行くことは大変でした。

日々の業務の中で細胞診検査を診ていない私にとって、教科書的な知識は、本を読めば得られますが診た事のない細胞はいくら本を読んでも分かりません。「百聞は一見にしかず！」です。

試験問題については、よくある過去問題がなかった事。実技試験重視のため、2次試験は2日間と長く、受験生間で情報が漏れるのを防ぐため、試験問題（標本）が何セットもあり、同じ試験を受けているにもかかわらずグループ間（30人で1グループ）での合格率に差が出ることもあったようです。限られた時間（5分間）で、標本を鏡検し悪性細胞の有無、場所、考えられる疾患などを、解答用紙に記入しなくてはなりません。経験も少なく、余裕のない私には過酷な2日間でした。（実力のある人には、そうでもなかったでしょうが…。）

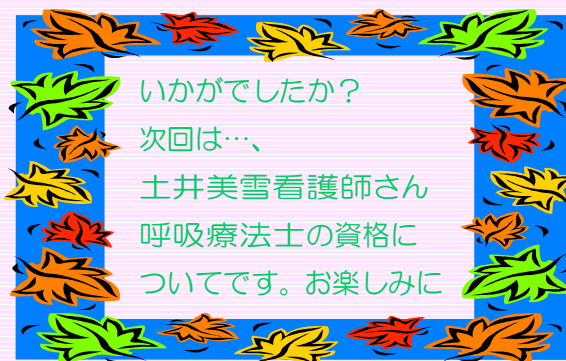
Q：資格の更新に必要な手続きはありますか？

A：はい、あります。4年に1回の更新があり、学会 セミナー ワークショップに最低2年に1回の参加と、規定の単位修得が必須条件としてあります。現在までに2度更新しています。

Q：今後の抱負を教えてください。

A：残念なことに、認定資格を取得し細胞診の院内実施の準備を始めた矢先に、産婦人科が播磨病院からなくなり、コストなどの面からも外注検査として行ったほうが合理的であるため、院内実施にはなりませんでした。同じ目標に向かって勉強した友人（大半が年下）との貴重な時間、そしてほとんどボランティアで指導して下さった細胞診指導医の先生方や、細胞検査士の先輩方の姿を身近で感じる事が出来たことは、私にとって貴重な財産となりました。いくら癌の告知が一般化したとはいえ、やはりそれを診断する臨床医、病理医そして癌と向き合っていかなければならない患者様のために微力ながら、貢献できるようにとの精神で頑張っています。当時に比べると、随分怠けていますが、「継続は、力なり」の精神をモットーに頑張っていきたいと考えています。

また、財団法人日本医療機能評価機構による、第三者的な病院評価の基準にも細胞検査士の確保という項目もあり、今後ちょっとは貢献できるでしょうか？



TTAK新聞のバックナンバーは

播磨病院ホームページ <http://www.harima-hp.jp/main.htm> からご覧になれます。

By S. M